1803 GJ81

強制同時給排レンジフード 取付説明書

※機種により多少デザインが異なる場合があります。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の 2 つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 交流 100 V以外では使用しないこと（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること（取付注意）
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

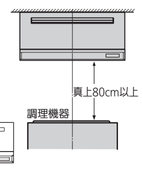
⚠ 注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- ファンや部品の取り付けは確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと（接触禁止）
  けがをするおそれがあります

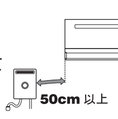
取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **・大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  また調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。
  排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用ねじが確実に届くことを確認してください。
  本体の取付用ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
  また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。



- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。
  また、横方向 50cm 以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。



- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。火災・故障の原因になります。
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm² 程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと（埋込禁止）
  漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります

⚠ 注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること（取付注意）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下によりけがをするおそれがあります
  壁材が薄く弱いと振動音が発生するおそれがあります

1 取付面の強度確認
製品を支える強さが必要です。

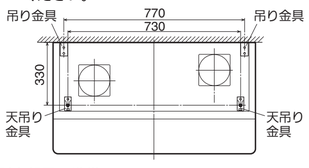
製品質量	37 kg

■板張りの場合
- ●板厚が 20mm 以下の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- ●板厚が 20mm 以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合
- ●あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

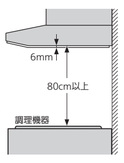
■土壁の場合
- ●柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 吊りボルトの設置
2 本の吊りボルトを図および製品寸法図を参照して天井部梁に取り付けます。
※ 吊りボルトは M10（市販品）を使用してください。
※ 本製品の質量は約 37kg です。吊りボルトは耐荷重 200kg ／本となるように取り付けてください。



3 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

4 標準取付寸法
本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm です。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。



5 電源コンセント・ブレーカー
電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相 100V）
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

お願い
必ずアース（D 種接地工事）をしてください。
レンジフードが誤作動することがあります。

付属品

吊り金具（2 個）
本体の取り付けに使います。

天吊り金具（2 個）
本体の取り付けに使います。

座付ねじ（φ 5.1 × 45, 4 本）
本体の取り付けに使います。

取付ねじ（M4 × 8, 10 本）
給排気口と給気幕板の取り付けに使います。

フランジ付き六角ナット（M10, 4 個）
本体の取り付けに使います。

ソフトテープ（2 本）
給排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。

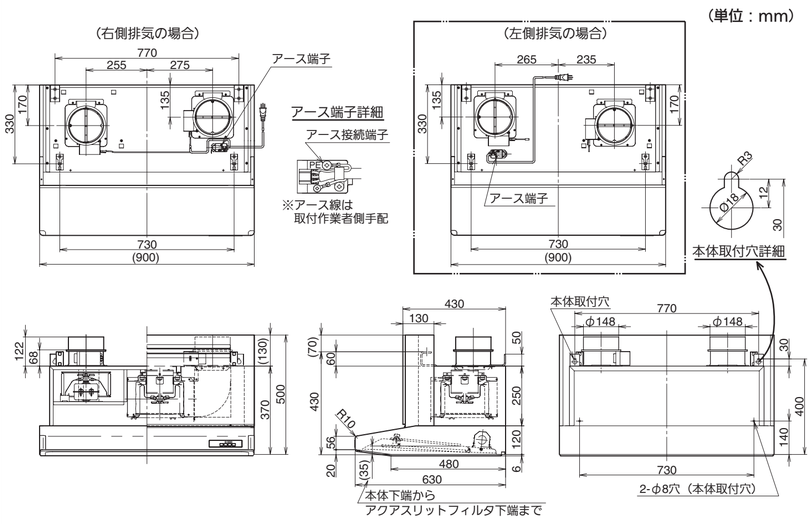
給気幕板（前ふた）（1 個）
本体に取り付けます。

給気口（電動シャッター）（1 個）
本体に取り付け、給気ダクトとの接続に使います。

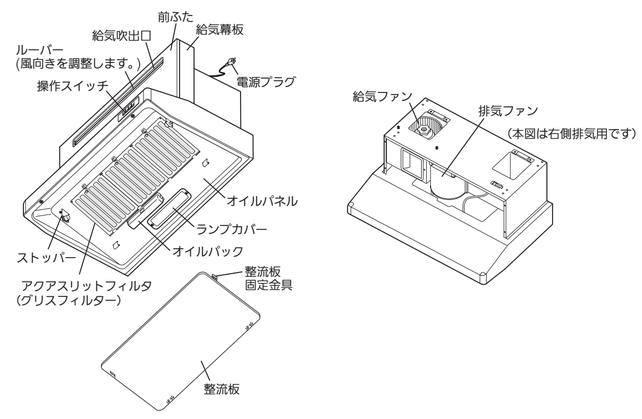
排気口（電動シャッター）（1 個）
本体に取り付け、排気ダクトとの接続に使います。

製品寸法図

（単位：mm）



各部のなまえ



取り付けかた

1．本体の準備

ご注意 本製品は右側排気用と左側排気用の 2 種類があります。
本説明書は右側排気用の図で説明しています。左側排気用の場合は給気口・排気口の位置が逆になりますが、取り付け方法は同じです。

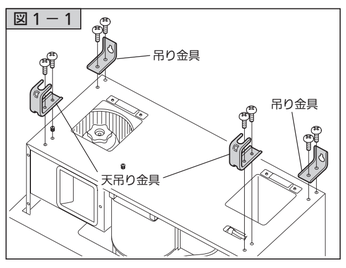
⚠ 注 意

- 取り扱いの際は必ず厚手の手袋をすること（手袋をする）
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

1 付属品を確認します。
梱包箱から付属品を取り出し、右上項の付属品一覧により不足がないか確認します。
お願い 取付作業の際は、キズ・破損のないように十分注意してください。

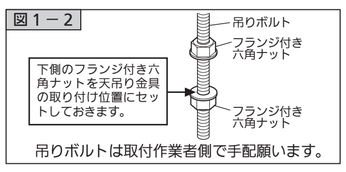
2 吊り金具・天吊り金具を取り付けます。（図 1 － 1）
本体の天板に 2 本ずつあらかじめ取り付けられているねじを使用し、付属品の吊り金具および天吊り金具各 2 個を天板へ取り付けます。

図 1 － 1



3 吊りボルトに付属のフランジ付き六角ナットを取り付けます。（図 1 － 2）
吊りボルトの下側のフランジ付き六角ナットの位置（天吊り金具取り付け位置）は製品寸法図を参考にあらかじめセットしておくと後作業が容易になります。

図 1 － 2



2．給気・排気ダクトの準備

⚠ 警 告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること（取付注意）
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと（取付注意）
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

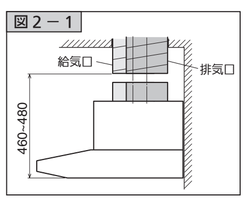
⚠ 注 意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）（使用禁止）
  感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃以上になるところには取り付けないこと（取付禁止）
  火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。
また、コンセントの位置を確認してください。

2 φ 150 のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。
（コンクリート、タイル、土壁の場合）

図 2 － 1



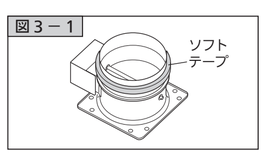
3．給・排気用部品の取り付けと接続

※本体の準備の項で取り出した給気口・排気口を用意してください。

■ 給気口・排気口の取り付け

1 給気口・排気口に付属品のソフトテープを貼ります。（図 3 － 1）
お願い
手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

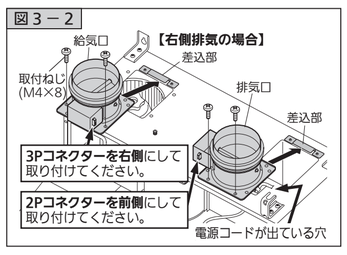
図 3 － 1



2 給気口および排気口を本体に取り付けます。
1）給気口および排気口のコネクター位置を基準に、それぞれの取付方向を確認します。
・右側排気の場合：図 3 － 2
・左側排気の場合：図 3 － 3

お願い
右側排気の場合と左側排気の場合で給気口・排気口の取付位置と向きが異なりますのでご注意ください。

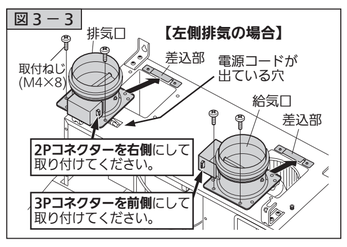
図 3 － 2



2）本体上面の差込部に差し込み、それぞれ付属品の取付ねじ 2 本で取り付けてください。

※ 電源コードおよび給排気用コードが出ている直近の取付口が排気用です。
※ 付属品の給気口・排気口にはそれぞれ用途シールが貼ってあります。本体取付口を間違えないようご注意ください。

図 3 － 3

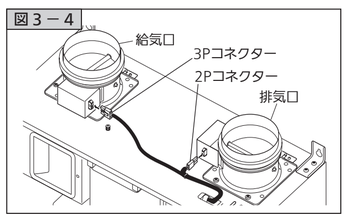


■ 電動シャッターへの信号線の接続（図 3 － 4）

1 給気電動シャッターを接続します。
コネクター接続部（3P コネクター）にレンジフード本体の信号線（3P コネクター）を接続します。

2 排気電動シャッターを接続します。
コネクター接続部（2P コネクター）にレンジフード本体の信号線（2P コネクター）を接続します。

図 3 － 4



お願い
- ●コネクターの接続は確実に行ってください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。
- ●コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

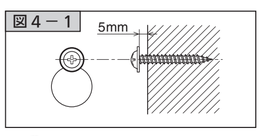
4．本体の取り付け

⚠ 注 意

- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと（取付注意）
  落下により、けがをするおそれがあります
- 作業は 2 人以上で行うこと（取扱注意）
  製品は約 37kg の重さがあります。

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図 4 － 1）
だるま穴位置（左右各 1 ケ所）に付属品の座付ねじ（φ 5.1 × 45）を壁面との隙間 5 mmまで締め付けてください。

図 4 － 1



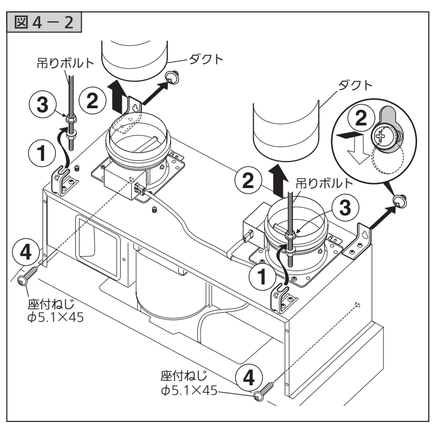
2 吊りボルトに天吊り金具を引っ掛けます。（図 4 － 2 ①）

3 ダクトに給気口・排気口を差し込みながら本体を取り付けます。（図 4 － 2 ②）
手順 **1** で壁面に取り付けた、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛け、しっかり締め付けてください。

4 付属品のフランジ付き六角ナットで天吊り金具をしっかり締め付けて固定します。（図 4 － 2 ③）

5 本体背面下側を付属品の座付ねじ 2 本でしっかりと固定します。（図 4 － 2 ④）

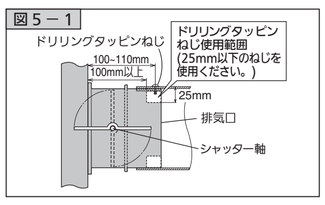
図 4 － 2



5．ダクトと排気用部品の接続

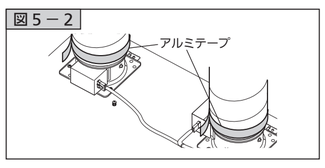
お願い
ドリリングタッピンねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図 5 － 1）

図 5 － 1



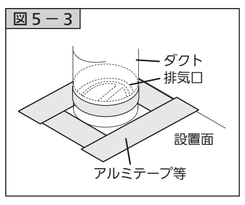
ダクト接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図 5 － 2）

図 5 － 2



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い（図 5 － 3）
排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面（フード天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

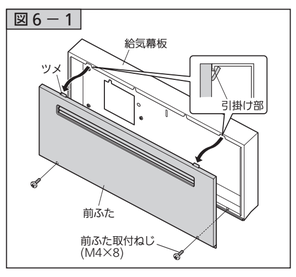
図 5 － 3



6．給気幕板の取り付け

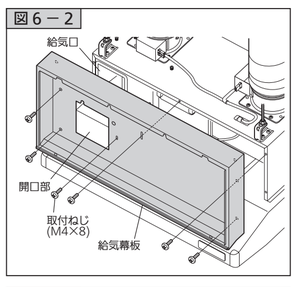
1 給気幕板の前ふたをはずします。（図 6 － 1）
給気幕板と前ふたを梱包箱から取り出し、前ふた取付ねじ（M4 × 8）を 2 本はずして前ふたをはずします。

図 6 － 1



2 給気幕板を取り付けます。（図 6 － 2）
給気幕板の開口部が本体の給気口側になるようにセットし、付属品の取付ねじ 6 本で取り付けます。

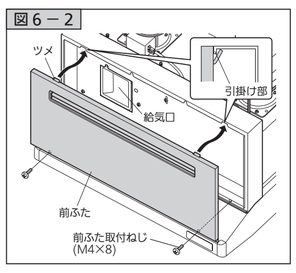
図 6 － 2



3 前ふたを取り付けます。（図 6 － 3）
前ふた上部のツメを給気幕板に引っ掛け、前ふた取付ねじ（M4 × 8）2 本で固定してください。

※ 前ふた取付ねじ（M4 × 8）2 本は前ふたを固定していたものです。

図 6 － 2



7．電気配線

⚠ 警 告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと（分解・修理・改造禁止）
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V以外では使用しないこと（使用禁止）
  火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと（取付注意）
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること（アースを取り付ける）
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

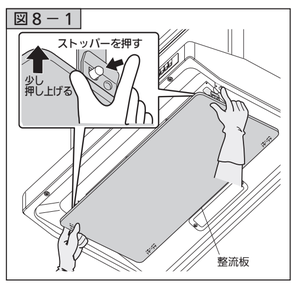
1 アース（D 種接地工事）を取ります。
※アース線は取り付け作業側にて手配します。

2 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。
お願い
・電源は専用のコンセント（2 極差込接続器 15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
・コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

8．試運転の準備

1 整流板をはずします。（図 8 － 1）
整流板を手で支え、少し押し上げるようにして整流板の両端にあるストッパーを押してはずします。
お願い
整流板を落とさないように両手でしっかりと支えてください。

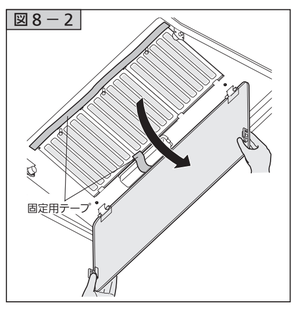
図 8 － 1



2 整流板を両手で支えながら、下へゆっくりとおろします。（図 8 － 2）

3 フィルターおよびオイルパックを固定しているテープをはがします。（図 8 － 2）

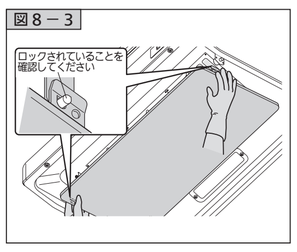
図 8 － 2



4 整流板を左右から両手で支えながら手前側を押し上げて上部両角のストッパーにより固定されるまで押し込みます。（図 8 － 3）
※ 整流板を軽く上下に動かしてみて、確実に取り付けられたことを確認してください。

お願い
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の落下の原因となりますので、取り付け後、再確認してください。

図 8 － 3



9．試運転

⚠ 注 意

- 運転中はファンの中に指や物を絶対に入れないこと（接触禁止）
  けがをするおそれがあります

■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
■ 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
■ 屋外の排気出口から排気され、異常音がないことを確認してください。
■ 前ふたのルーバーを調整して、給気風が天井面や直接顔に当たらない位置にセットしてください。
■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

10．お客様への説明

■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

［製造元］ 富士工業株式会社
本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1 － 9
TEL 042(768)3754（営業部）